

## 古代から現代に続く文様・図案

メモ)鉄本 2025.02.10

博物館には、現代に続く文様を埴輪や土器類にみることができる。古代の土器類などの文様は次のように分類できる。








- ①文様を施す文様に由来するもの 篋描(へらがき)文、櫛描(くしがき)文
- ②文様の形状に由来するもの 凹線文、貼付文、刺突文、透孔、直線文、波状文、斜線文など
- ③自然界のものを形象したもの 鋸歯文、流水紋、綾杉文、渦巻文、蕨手文など
- ④人間の思想や観念が形象されたもの 龍文、四神など

ここでは、主に③及び④を対象とする。

文様の名称	由来	古代における出現場所	近代における出現場所
鋸歯文(きょしもん) 鱗文(うろこもん)  意味: 災難厄除	三角形は蛇の鱗を表したものの。龍蛇信仰に関係し、「水難除け」、「火難除け」のお守りの意味がある。	銅鐸、銅鏡、特殊器台、埴輪等  壺形土器 大阪・狼塚古墳出土	壁紙、着物等  着物の帯
流水文  類似文: 桜川分、菊水文 意味: 神仏加護 工字文 	流れる水流を象ったもの。一条の線或いは複数の平行線で表現される。縄文晩期の工字文(こうじもん)に由来。S字状が縦展開するものと横展開するものがある。 <b>【参考】</b> 工字文とは; 縄文土器に見られる「工」の字に似た文様 黒い部分が「工」の形。	銅鐸、木器、土器等  壺形土器(青森・青鹿長根遺跡) 肩の部分に工字文がみられる。	襖紙、壁紙、能楽装束、流水とモチーフの組合せによる菊水文等  山本能楽堂 HP より 地が流水文
市松(石畳)模様  別名: 敷石文様 意味: 災難厄除	時代によって名称が変化。平安時代は、「霰(あられ)」という有職文様であった。「市松」という名称は、1741年(寛保1)江戸中村座の初代佐野川市松がこの文様の袴を用いたことによる。	埴輪、縄文土器(八戸)  貴人埴輪(鴻巣・生出塚埴輪窯跡)	壁紙、襖紙、能装束、建築。石畳、エンブレム等。桂離宮の襖は有名。  東京五輪 2020

<p>綾杉模様</p>  <p>ニシンの骨の形に似ていることから、ヘリンボーン Herringbone という。</p>	<p>ヘラや半分に切断した竹で施す。相対する斜線文が綾杉状をなす。 *綾杉とは;猿猴杉(下の写真)又はヒノキ科の榎(さわら)の別名。</p> 	<p>器台、土器、銅鐸、銅矛 靱綾織物(稲部遺跡)</p>  <p>唐古・鍵遺跡 広口壺(弥生中期)</p>	<p>調度品、三味線、着物の地模様等</p>  <p>勝姫(千姫の娘)の輿入調度一部(1628年)</p>
<p>青海波文 (せいがいはもん)</p>  <p>意味:子孫繁栄、未来永劫</p>	<p>ササン朝ペルシャ発祥。世界各地に類似の文様がある。</p> <p>雅楽「青海波」が名称の起源。元禄年間に活躍した青海勘七が青海波塗を創始。絞漆を薄く塗り、生乾きの中に鋸歯状の篋、猪毛、真鍮の刷毛で波文を描く手法を用いた。</p>	 <p>須恵器の内側に残った波文様(当て具の痕跡)</p>	<p>漆器、染物、陶器</p>  <p>色絵鶴鶴文皿 鍋島藩窯(18C 前半)作 九州陶磁文化館</p>
<p>渦巻文</p>  <p>類似の文様に双頭渦文がある。</p>  <p>定かではないが、「水」又は「太陽」がモチーフとされている。また、「永遠」、「魂の循環」の意味が込められているともいう。</p> <p>意味:永遠、魂の循環</p>	<p>シベリア、ケルト等世界各地に見られる文様。</p>  <p>世界最古級の渦巻文入り編目文様土器(シベリア・アムール流域。新石器時代初期)</p>  <p>ケルトの聖書『ダロウ書』の渦巻文様(一部)</p>	<p>土器</p>  <p>渦文深鉢(縄文中期) 山梨県笛吹市桂野遺跡出土</p> <p>壺の口縁部内面に貼付突帯として施された渦巻文が弥生前期末から中期前半の土器に見られる。</p> 	<p>着物、装飾品</p>  <p>注染浴衣</p>  <p>スターリングシルバー製リング(ケルト文様指輪)</p>

<p>唐草文</p>   <p>パルメット文様</p> <p>意味:長寿、子孫繁栄</p>	<p>棕櫚をモチーフにした古代ギリシアのパルメット文様が起源。</p>  <p>ギリシア BC4世紀の墓石 (ゼノクラテイア)</p>	<p>鞍、杏葉、軒平瓦等</p>  <p>誉田八幡宮 国宝「金銅透彫鞍金具」 日本最古の唐草文様</p>	<p>染織、織物、蒔絵、ファッション小物等</p> 
<p>菱文</p>   <p>菱の実</p> <p>菱の繁殖力の高さが「子孫繁栄」や「無病息災」の願いに結びつく</p>	<p>東日本の縄文土器に見られる。</p>  <p>いわき市大畑貝塚出土</p> <p>鋸歯文の対向配置、或いは、多重配置によって菱文となる。</p>	<p>有職文様として装束や調度品に使用</p>  <p>菱文錦裂 (7~8世紀) 東京国立博物館所蔵</p>	<p>着物、陶器類、家紋</p>  <p>霊元天皇 御張相 (江戸時代)</p>  <p>武田菱</p>
<p>檜垣文</p>  <p>意味:無病息災、魔除け</p>	<p>檜の薄板を斜めに組んだ垣根をデザイン化した文様(網代編みの1つ)「網代」の語源は、「網」の「代」わりという意味。細長の木や竹を交互にクロスさせ編み上げる。</p>	<p>信楽焼の檜垣文</p>  <p>信楽小壺(檜垣文) MIHO MUSEUM 蔵</p>	<p>建築物、壁材、着物</p> 
<p>籠目</p>  <p>意味:魔除け、邪気祓い</p> <p>六芒星</p>  <p>魔除け</p>	<p>竹籠の編目を文様化</p> <p>「昔より目籠は鬼のおそるといひならは」(『用捨箱』天保12年)</p> <p>日本で出土したカゴ類には、網代編み、ゴザ目編み、四ツ目編み、六ツ目編み等の編組技法がみられる。</p>	<p>竹・藤などのカゴ類</p>  <p>青谷上寺地遺跡出土 六ツ目編みカゴ (弥生中期)</p>	<p>着物、ガラス細工、竹細工、暖簾等</p> <p>江戸切子</p> 

<p>亀甲文</p>  <p>意味: 神仏加護、長寿</p>	<p>中国の「亀卜」に由来。亀の甲羅を使って吉兆を占うことから亀甲文様が神聖なものとしてされた。陰陽道では六角を「幸運を招く」文様としている。</p> <p>紀元前13世紀頃のエジプト王墓の天井画にも見られる。</p>	<p>武器・武具類の文様</p>  <p>藤ノ木古墳 鞍(前輪)</p>	<p>焼物、衣装、家紋</p>  <p>角瓶(17世紀) 佐賀県立博物館所蔵</p>
<p>麻の葉</p>  <p>意味: 吉祥文様(健康)</p>	<p>大麻の葉をあしらった図柄で、古来より麻は神事に用いられた。</p> <p>麻の葉は成長が早いことから強い生命力を象徴。</p> 	<p>平安時代に誕生。衣装、曼荼羅。</p>  <p>歌舞伎役者の岩井半四郎が女形の役で「麻の葉模様」の衣装を着たことから、江戸時代には「麻の葉模様」が大流行。</p>	<p>襖紙、壁紙、組子などの建具、産着</p>  <p>箱根の寄せ木細工</p>  <p>組子</p>

【参考文献】

- ・『「文様」のしきたり』 藤依里子/著 青春出版社 2022
- ・『新版 縄文美術館』 監修 小野正文・堤 隆 平凡社 2018
- ・『やきもの 文様事典』 陶工房編集部 編 誠文堂新光社 2021
- ・『日本文様事典』 上條 耿之介著 雄山閣 2024
- ・『太陽別冊 古墳時代美術図鑑 2016』 古谷 毅/監修 平凡社 2017
- ・リーフレット「縄文土器 文様を読み解く こめられた縄文人の思い」 栃木県埋蔵文化財センター
- ・研究紀要第14号 「菱形文の成立と変形 そしてその諸相」 谷井 彪 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1998
- ・大阪歴史博物館 研究紀要第19号 「日本列島と朝鮮半島の木製有文当て具についての基礎的研究」 寺井 誠 2021
- ・国立歴史民俗博物館研究報告 第83集 「東北地方における弥生土器の形成過程」 高瀬克範 2000
- ・リーフレット「えひめ弥生土器文様素描」 愛媛県埋蔵文化財調査センター 2002
- ・論文「アイヌ文様は「魔除けか」 衣文化に付随する通説を検証する」 北原次郎太 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 2018
- ・論文「中期縄文土器の文様構造」 —清瀬市域出土土器の文様解読— 内田祐治 2013
- ・HP [模様と図案 | NDL イメージバンク | 国立国会図書館](#)
- ・HP [伝統文様 | 日本の文様 | 日本の内装材料辞典](#)
- ・HP [ColBase](#) 国立文化財機構所蔵品統合検索システム